

# RQ フレックスを利用した 土壌中アンモニア態窒素の簡易分析



表1 リフレクトクエントアンモニウムテスト試薬の種類

測定域 (NH <sub>4</sub> mg/L)	利用場面
0.2~7	施肥量が少ない場合 施肥後かなり日数が経過した時
5~20	通常
20~180	C E Cなどの測定時

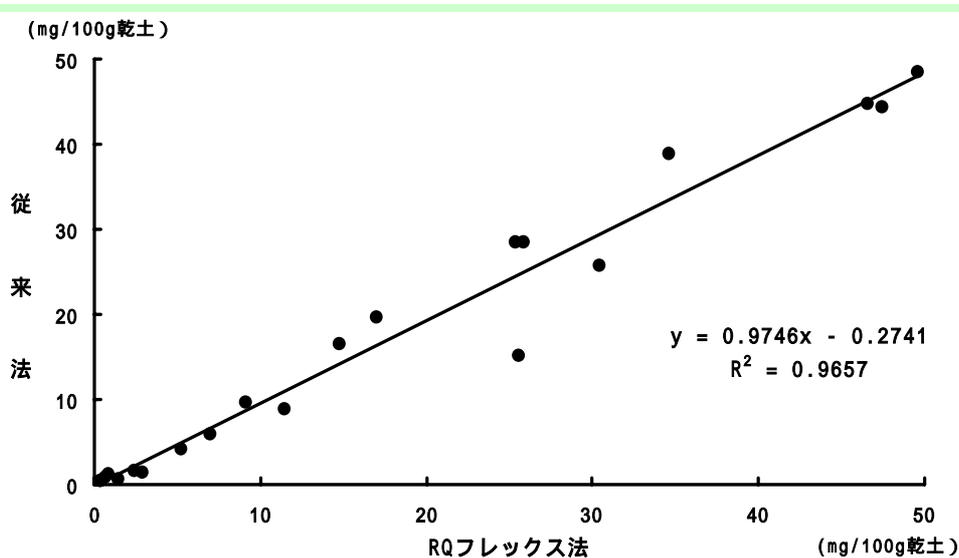


図2 土壌中アンモニア態窒素の分析時 (KCl抽出液) における従来法 (セミマイクロ蒸留法) とRQフレックス法の比較

土壌中のアンモニア態窒素を、簡単しかも高い精度で分析できるRQフレックス（小型反射式光度計）の利用方法を紹介します。

RQフレックス（写真）は、試験紙などを用いて簡単に分析できることから、土壌や汁液中の硝酸態窒素の分析ですでに広く利用されています。土壌中のアンモニア態窒素も、従来法と同じ10%塩

化カリウム溶液で抽出すると、図2に示すように高い精度で分析することができます。

また、土壌のpHとECを測定（±1：水2）した後のろ液を用いた場合にも、精度がやや下がりますが、おおよその目安として利用できます。

（土壌肥料科 山崎浩司 088-863-4915）